



OSAKA SODA



2023年3月期 決算および 2024年3月期 事業計画説明会

2023年6月2日

株式会社 大阪ソーダ

はじめに：AC製造設備主要機器不具合の状況報告

現在までの状況

2023年4月4日、水島工場のアリルクロライド（AC）製造設備の主要機器に不具合が発生し稼働を停止しました。当該設備は3月上旬から定期修理のために稼働を停止し、設備点検と検査を実施のうえで、試運転で問題ないことを確認した後、3月下旬から本稼働を再開しておりました。

現在、5月11日に発表した復旧計画は予定どおりに進んでいる状況です。

復旧計画（2023年5月11日時点）

2023年5月8日

一部の製品で
生産を再開



2023年6月中旬

部分補修により
稼働率を約70%に向上



2024年3月

定期修理時に
全面復旧工事を実施

業績への影響

上記の復旧計画に基づき、今期業績予想を算出しております。（後ほどご説明）

皆さまには、多大なるご迷惑、ご心配をおかけしておりますが
引き続き、早期の全面復旧に向けて取り組んでまいります。



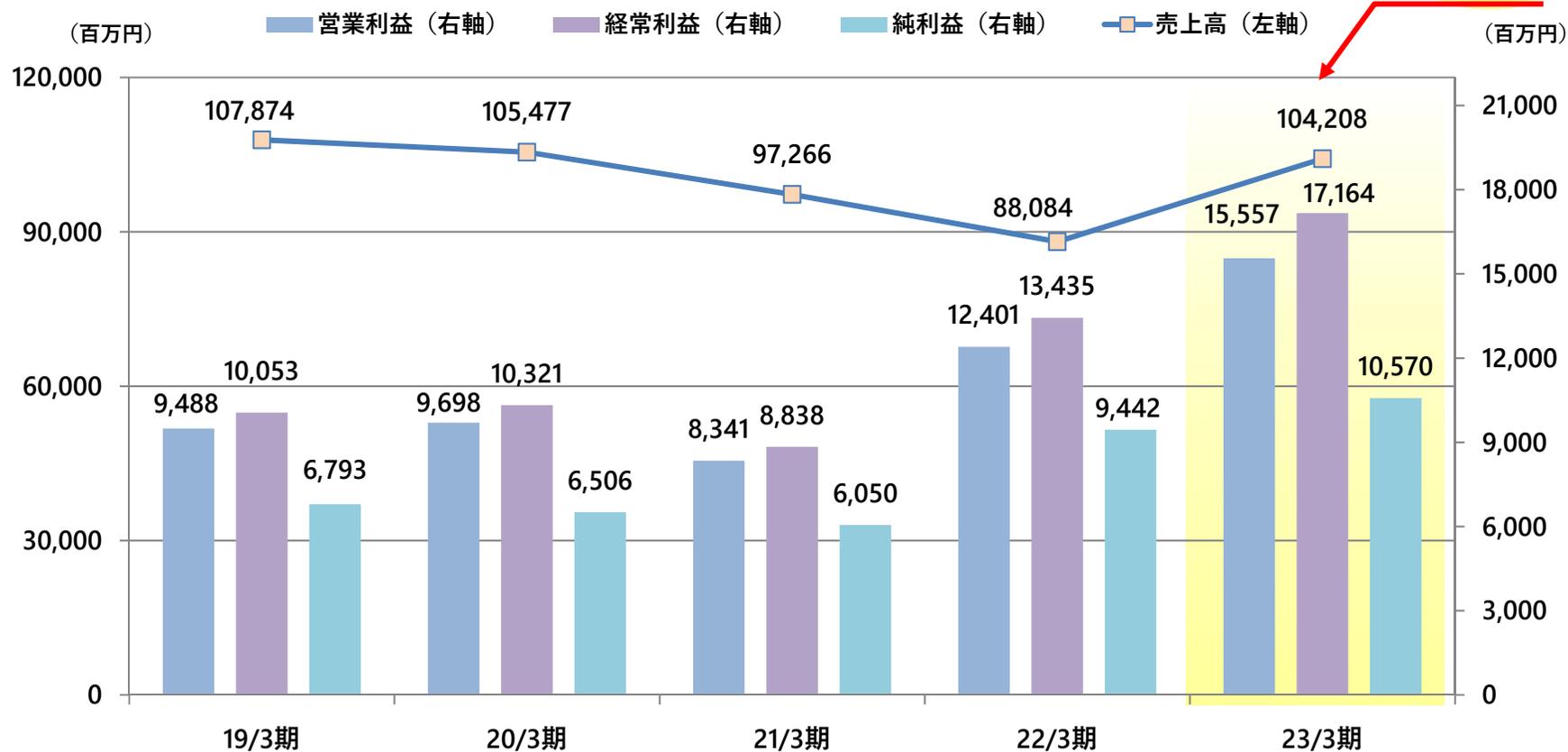
2023年3月期 業績

業績推移 (19/3期～23/3期)

- 収益認識基準を適用した前期から、売上高は大幅増収を達成
- 各段階利益は2期連続で過去最高を大幅に更新

売上高および営業利益、経常利益、当期純利益の推移

最高益を大幅更新



(※) 22/3期より「収益認識に関する会計基準」を適用

2023年3月期 概況

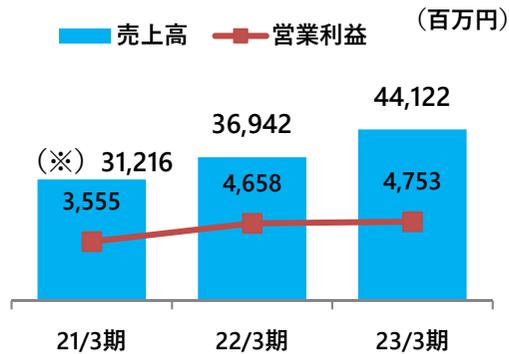
- 昨年8月5日に上方修正した計画線上での着地
- 今期末に新たに連結対象となった米国コンパウンド会社の業績悪化にともなう減損損失の計上により当期純利益は未達成

(百万円)	22/3期		23/3期		増減率 (%)	増減額	23年3期 修正計画 (8/5)	達成率 (%)	差異
		構成比 (%)		構成比 (%)					
売上高	88,084	—	104,208	—	18.3	16,124	98,000	106.3	6,208
営業利益	12,401	14.1	15,557	14.9	25.4	3,156	15,700	99.1	▲143
経常利益	13,435	15.3	17,164	16.5	27.8	3,729	16,900	101.6	264
当期純利益	9,442	10.7	10,570	10.1	12.0	1,128	11,700	90.3	▲1,130
一株利益 (円)	404.73	—	428.43	—	—	—	501.97	—	—
海外売上高	31,807	36.1	39,675	38.1	24.7	7,868	—	—	—

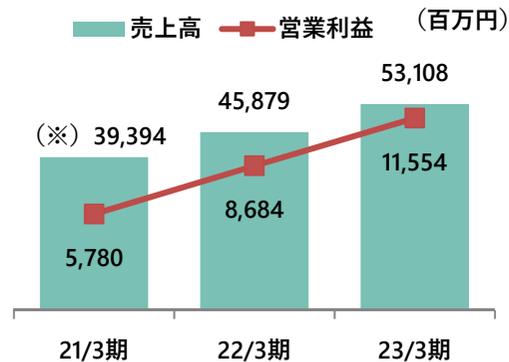
	22/3期	23/3期
U S \$ / 円	112 円	134 円
ユ - ロ / 円	131 円	140 円
ナフサ (円/KL)	55,500 円	75,500 円

セグメント別売上高・営業利益比較

基礎化学品



機能化学品



住宅設備ほか



(※) 21/3期は「収益認識に関する会計基準」を適用したと仮定して算出

■ 全セグメントで増収増益を達成

前期に続き、主力製品が好調を維持

- クロール・アルカリ
原燃料価格上昇に対応した価格改定が浸透
- エピクロルヒドリン
上期に電子材料関係の需要が堅調に推移、価格改定も増益に貢献

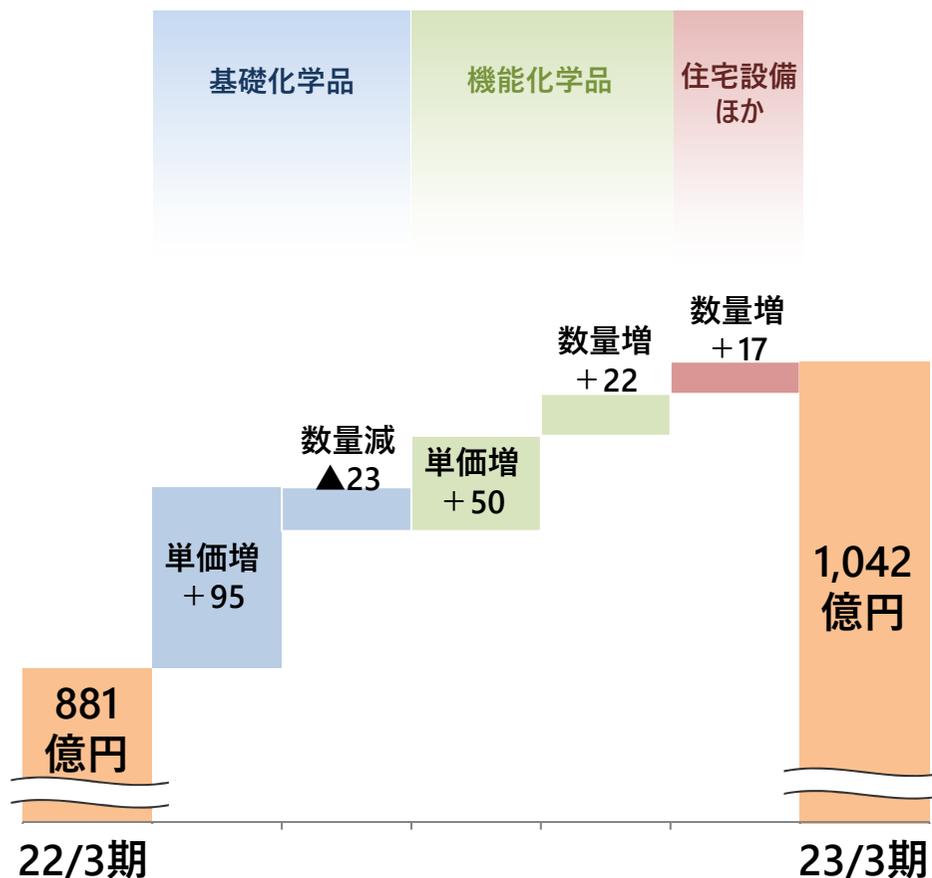
グローバルニッチトップ製品の底堅い需要と付加価値の高いヘルスケアの順調な拡大で増収増益

- 合成ゴム
エピクロルヒドリンゴムは環境規制対応により自動車向けの需要が増加
アクリルゴムは国内外で新規採用が進み、特にアジアで販売が拡大
- 合成樹脂
上期を中心に中国で絶縁ワニス向けの販売が増加
- アリルエーテル類
欧米や中国で機能性塗料、電子材料向けでシランカップリング剤の販売が好調
- ヘルスケア
医薬品精製材料は欧米・アジア向けで糖尿病治療薬の需要が拡大
医薬品原薬・中間体は受託案件が増加
(糖尿病合併症治療薬・不眠症治療薬・認知症治療薬)

- 生活関連商品の販売等が堅調に推移

売上高要因分析

セグメント別 要因分析



主要製品別 増減分析

基礎化学品 +72 (億円)

製品	増減額 (億円)
クロール・アルカリ	+73
エピクロロヒドリン (EP)	+4
その他	▲5

機能化学品 +72 (億円)

製品	増減額 (億円)
アリルエーテル類	+31
ヘルスケア ※1	+16
合成ゴム・合成樹脂 ※2	+7
電極	+6
コンパウンド	+17
その他	▲5

※1 ヘルスケア：クロマト（医薬品精製材料）、医薬品原薬・中間体等

※2 合成ゴム・合成樹脂：エピクロロヒドリンゴム、ダップ樹脂等

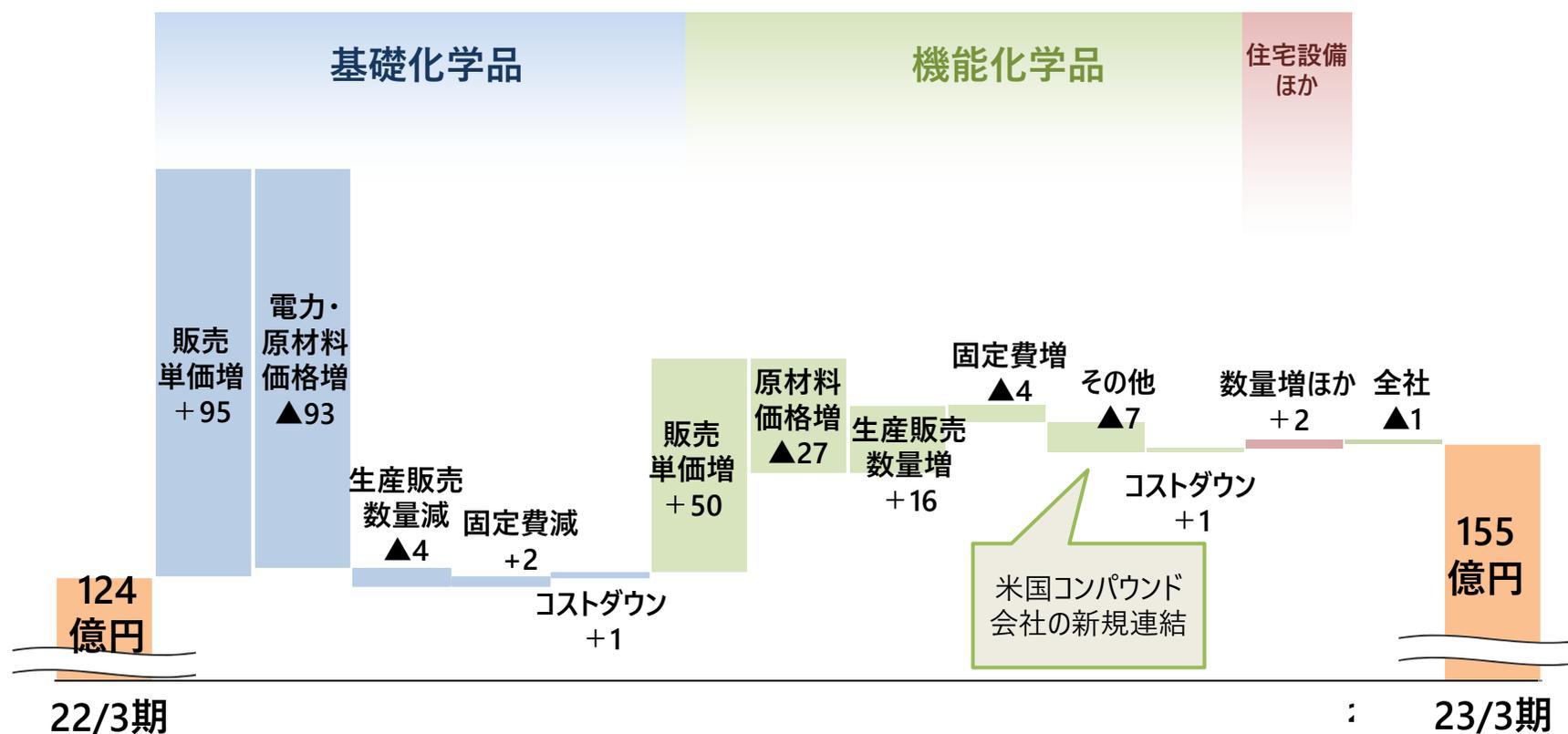
住宅設備ほか +17 (億円)

製品	増減額 (億円)
生活関連商品ほか	+17

営業利益要因分析

- 基礎化学品は主力製品の価格改定により原燃料価格上昇の影響を吸収
- 機能化学品はアリルエーテル類を中心に主力製品の価格改定が浸透
- ヘルスケア等の高付加価値製品の販売数量増が貢献

セグメント別 要因分析



貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書

- 前期に引き続き収益性の向上により、自己資本利益率（ROE）は11%台を維持
- CB転換による負債の減少と純資産の増加で自己資本比率は72.1%に

(百万円)	21/3期	22/3期	23/3期	前期比
総資産	119,373	129,159	138,029	8,870
純資産	77,232	83,896	99,543	15,647
自己資本比率	64.7%	64.9%	72.1%	7.2%
有利子負債	15,909	15,905	7,664	▲8,241
自己資本利益率（ROE）	8.3%	11.7%	11.5%	▲0.2%

(百万円)	21/3期	22/3期	23/3期	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,347	13,378	9,354	▲4,024
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,850	▲6,961	▲5,380	1,581
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲4,464	▲1,646	▲4,596	▲2,950
現金および現金同等物	31,936	37,016	36,843	▲173



2024年3月期 業績予想

AC製造設備主要機器の不具合にともなう影響

- 復旧計画に基づき2024年3月期通期業績予想を算出
- 1Qに稼働停止の影響が集中、6月中旬以降は7割稼働を見込む

2024年3月期通期業績予想に対する影響額

(億円)

売上高			営業利益		
上期	下期	通期	上期	下期	通期
▲24	▲16	▲40	▲32	▲13	▲45

製品の供給状況

基礎化学品	クロール・アルカリ (かせいソーダ等、無機薬品)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6月中旬以降、クロール・アルカリおよびAC・EPともに稼働が約7割まで回復 ■ 全面復旧までは出荷調整が継続
	アリルクロライド (AC)	
	エピクロルヒドリン (EP)	
機能化学品	エピクロルヒドリンゴム	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1Qは一時的に在庫出荷等に対応 ■ 6月中旬以降は平常どおりに生産 ■ 期を通じて販売への影響は軽微 ■ なお、ヘルスケア事業には影響なし
	ダップ樹脂	
	アリルエーテル類	

2024年3月期 事業計画

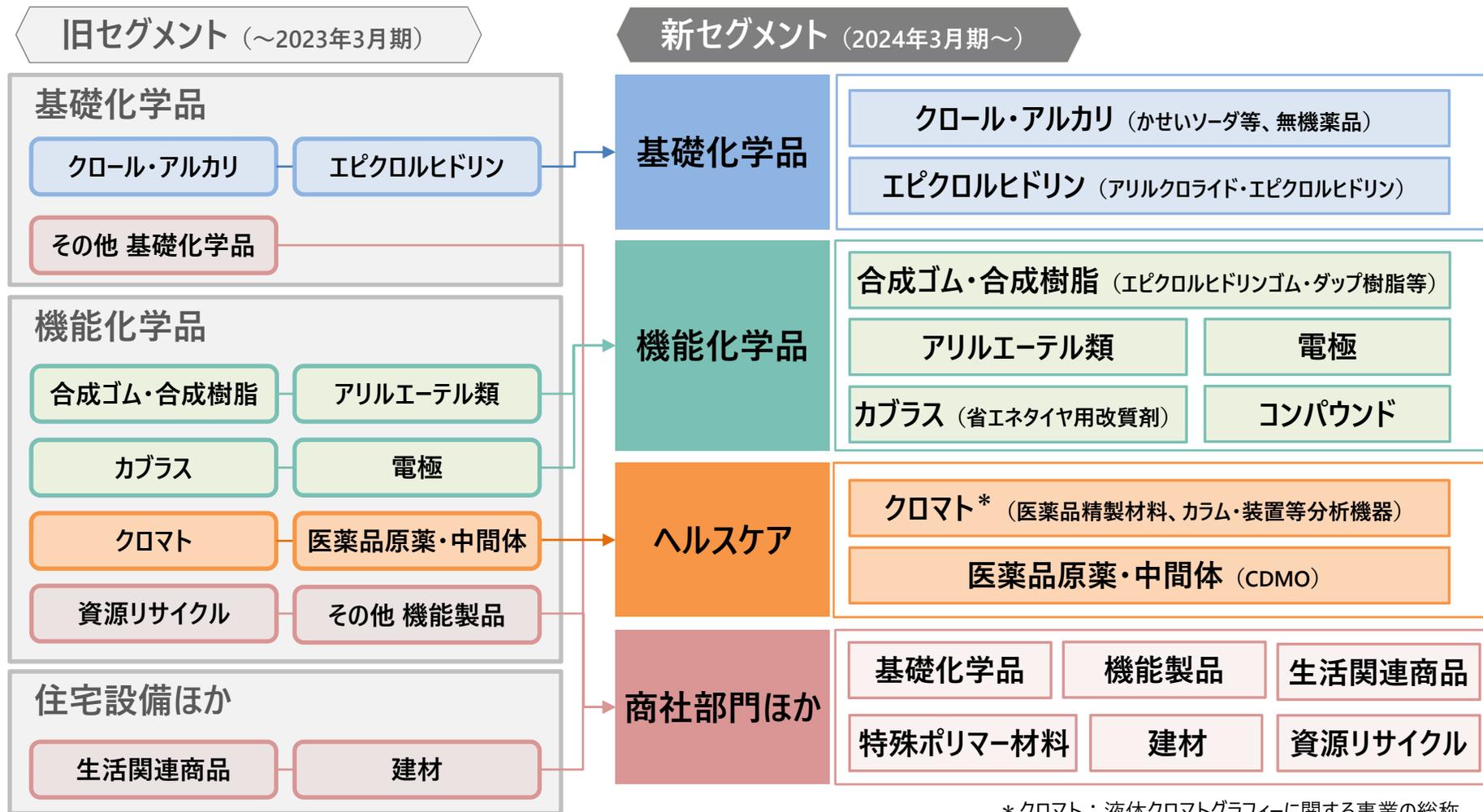
- 景気持ち直しの継続に期待するも、電気料金や物価の上昇、金融引き締めによる景気下振れリスクを懸念
- AC製造設備主要機器不具合の影響を踏まえ、通期見通しは一時的に増収減益

(百万円)	23年3月期		24年3月期計画		増減	
		構成比(%)		構成比(%)	金額	率(%)
売上高	104,208	—	105,000	—	792	0.8
営業利益	15,557	14.9	10,000	9.5	▲5,557	▲35.7
経常利益	17,164	16.5	11,100	10.6	▲6,064	▲35.3
当期純利益	10,570	10.1	7,500	7.1	▲3,070	▲29.0
1株当たり 当期純利益	428.43円	—	294.81円	—	—	—
海外売上高	39,675	38.1	37,200	35.5	▲2,475	▲2.6

前提条件	23年3月期	24年3期計画
U S \$ / 円	134円	130円
ユ - 円 / 円	140円	140円
ナフサ (円 / KL)	75,500円	63,000円

報告セグメントの変更

- 事業拡大にともないヘルスケア事業を機能化学品セグメントから分離・独立
- ヘルスケア、商社部門ほかのセグメント区分を新設



* クロマト：液体クロマトグラフィーに関する事業の総称

セグメント別売上高・営業利益計画

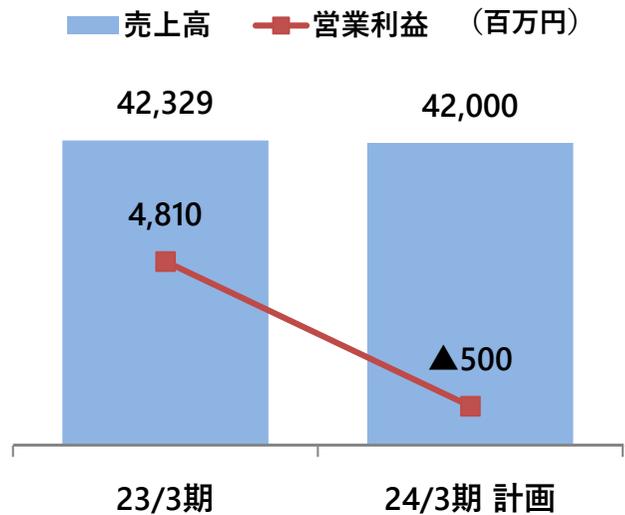
- 基礎化学品は、AC製造設備主要機器不具合の影響により営業利益が低下
- 機能化学品は、一部の製品での生産調整とコンパウンドの収益改善を織り込む
- ヘルスケアは、引き続き事業が拡大し好調に推移

		23年3月期※			24年3月期計画			増減		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
		(百万円)								
売上高	基礎化学品	21,141	21,188	42,329	20,300	21,700	42,000	▲841	512	▲329
	機能化学品	15,625	17,146	32,771	16,200	17,000	33,200	575	▲146	429
	ヘルスケア	5,891	5,398	11,289	6,000	6,300	12,300	109	902	1,011
	商社部門ほか	9,257	8,561	17,818	8,500	9,000	17,500	▲757	439	▲318
	合計	51,915	52,293	104,208	51,000	54,000	105,000	▲915	1,707	792
営業利益	基礎化学品	3,709	1,101	4,810	▲1,300	800	▲500	▲5,009	▲301	▲5,310
	機能化学品	3,945	2,415	6,360	2,300	3,350	5,650	▲1,645	935	▲710
	ヘルスケア	2,282	2,314	4,596	2,500	2,600	5,100	218	286	504
	商社部門ほか	472	664	1,136	700	300	1,000	228	▲364	▲136
	全社・消去	▲686	▲659	▲1,345	▲600	▲650	▲1,250	86	9	95
	合計	9,722	5,835	15,557	3,600	6,400	10,000	▲6,122	565	▲5,557

※23年3月期のセグメント別数値は、新セグメントに組み替えた概算数値です。

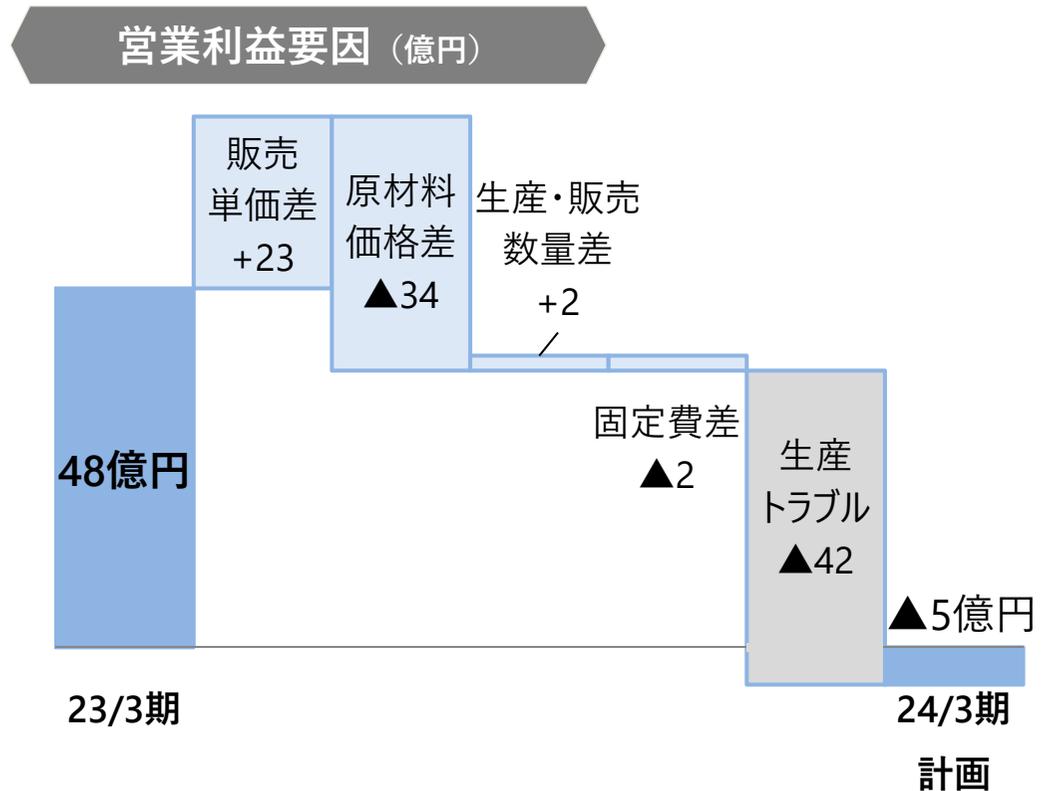
セグメント(基礎化学品)

- 基礎化学品全般では、上期は厳しい環境となるが下期以降の緩やかな需要回復を想定
- クロール・アルカリ製品は、前期に実施した価格改定効果が発現
- エピクロルヒドリンでは、上期に市況悪化の影響を受けるが下期から緩やかに回復



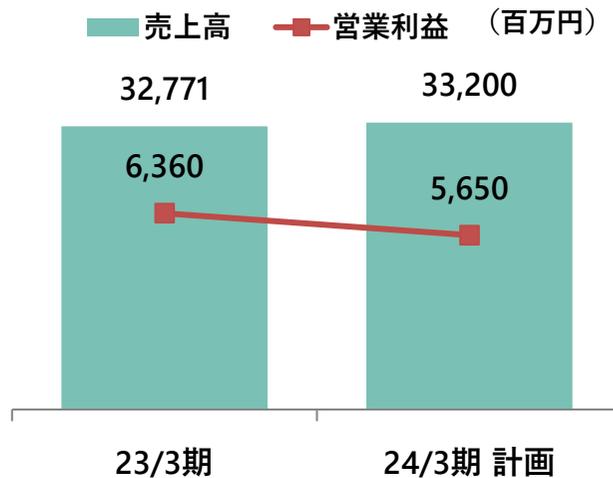
売上高増減 (前期比▲3億円)

クロール・アルカリ	+55
エピクロルヒドリン	▲23
生産トラブル	▲35



セグメント(機能化学品)

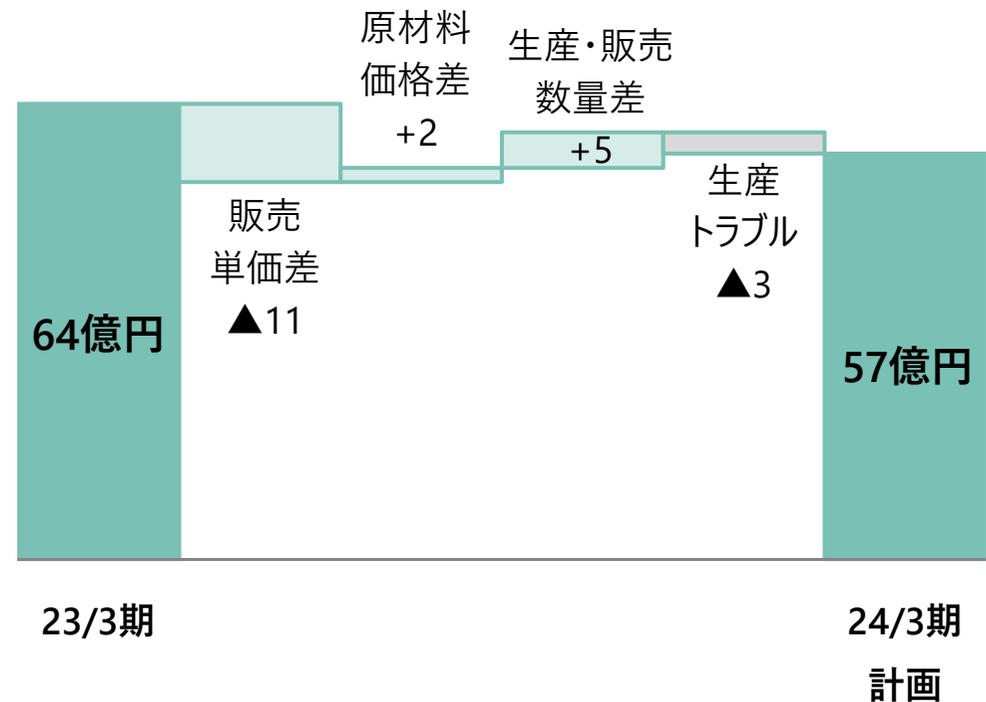
- 合成ゴムは、自動車向けは緩やかに回復、環境規制強化にともなう他材料からの代替需要や新規用途の開拓に注力
- 合成樹脂は、UVインキの需要が回復局面へ移行する想定、インキ以外で新規開拓を推進
- アリルエーテル類は、機能性塗料向けを中心にシランカップリング剤の需要が拡大する一方で原料市況の軟化による販売単価下落を織り込む



売上高増減 (前期比+4億円)

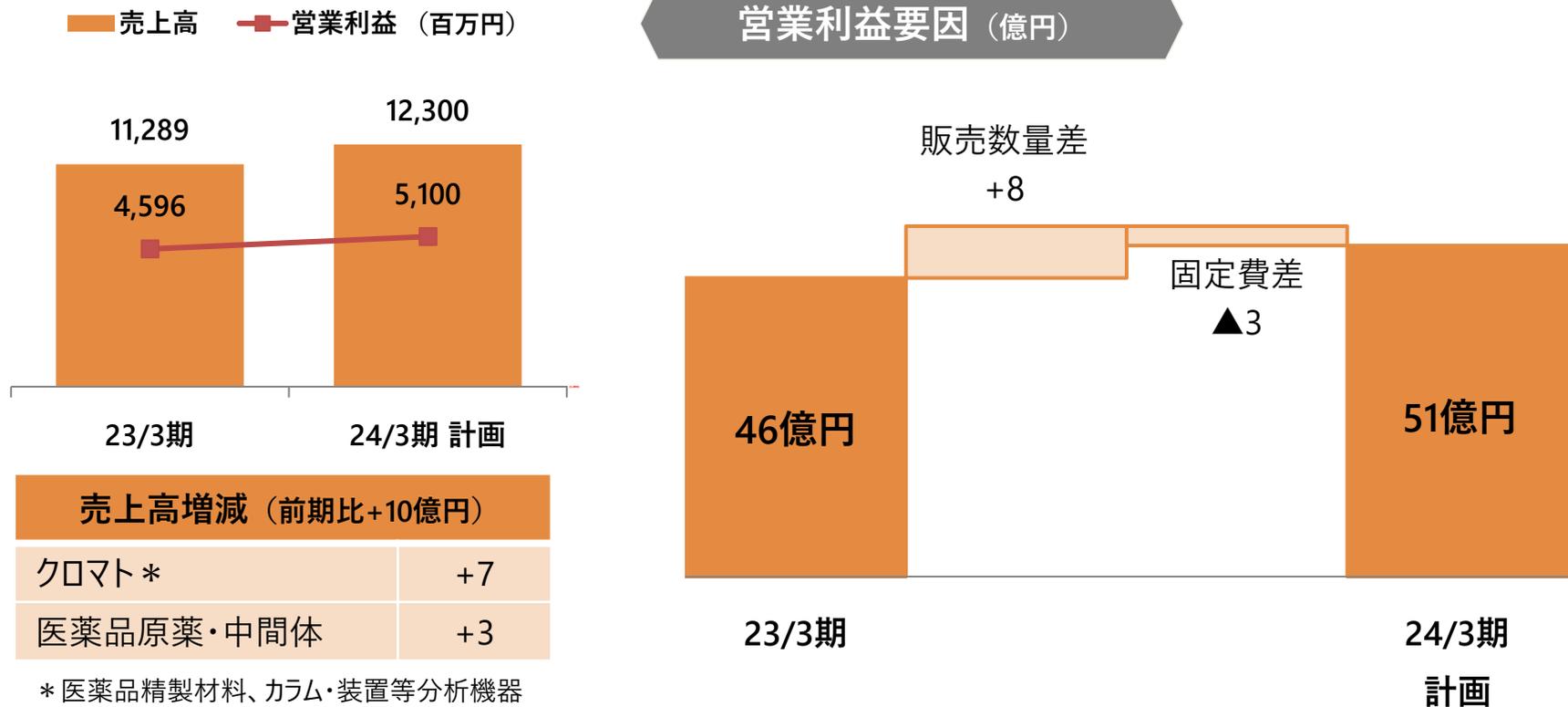
合成ゴム・合成樹脂	+10
アリルエーテル類	+0
電極他	▲1
生産トラブル	▲5

営業利益要因 (億円)



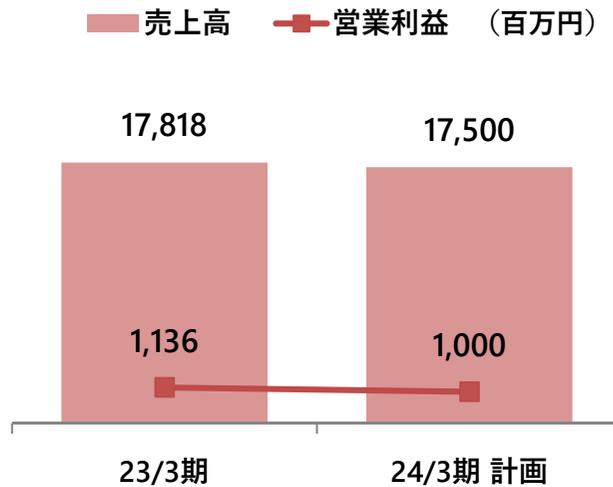
セグメント(ヘルスケア)

- ヘルスケア全般では、医薬品業界のモダリティ変化により中長期的に新たな需要が創出
- クロマトは、医薬品精製材料では尼崎工場の増強完了、糖尿病治療薬ならびに急拡大する肥満治療薬向けに販売を拡大、カラム・装置等分析機器では新製品ラインナップを拡充
- 医薬品原薬・中間体は、今年3月に新製造棟を竣工、設備能力を活かし大型案件の獲得を目指す



セグメント(商社部門ほか)

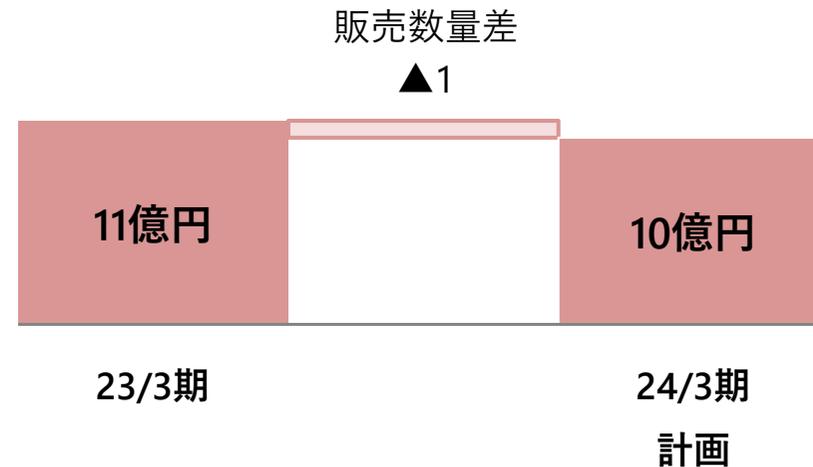
- コンシューマープロダクツでは、生活関連商品の販売が前期に続き堅調を維持
- 特殊ポリマー材料は、印刷需要の回復にともない感光性樹脂や関連商品の販売が増加
- プラントエンジニアリングの事業撤退にともない収益が減少



売上高増減 (前期比▲3億円)

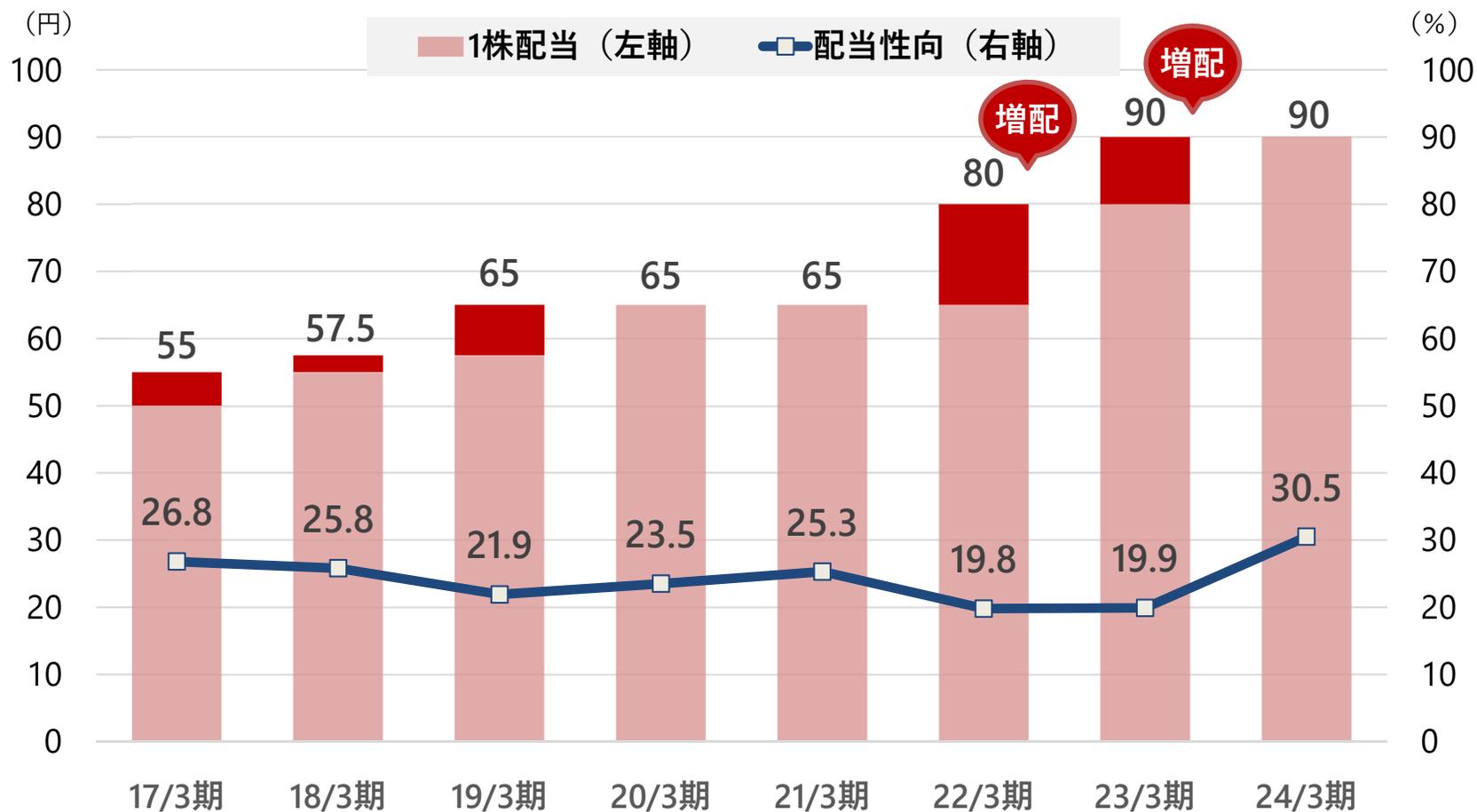
生活関連商品	+3
特殊ポリマー材料	+2
プラントエンジニアリング他	▲8

営業利益要因 (億円)



株主還元

- 23年3月期は、年間配当90円（前期比+10円）および、自己株式取得を実施
- 24年3月期の業績は減益予想となるが、安定配当を継続する方針



※ 18/3期以前の1株配当は、2017年10月の株式併合後の数値に換算して記載しています。

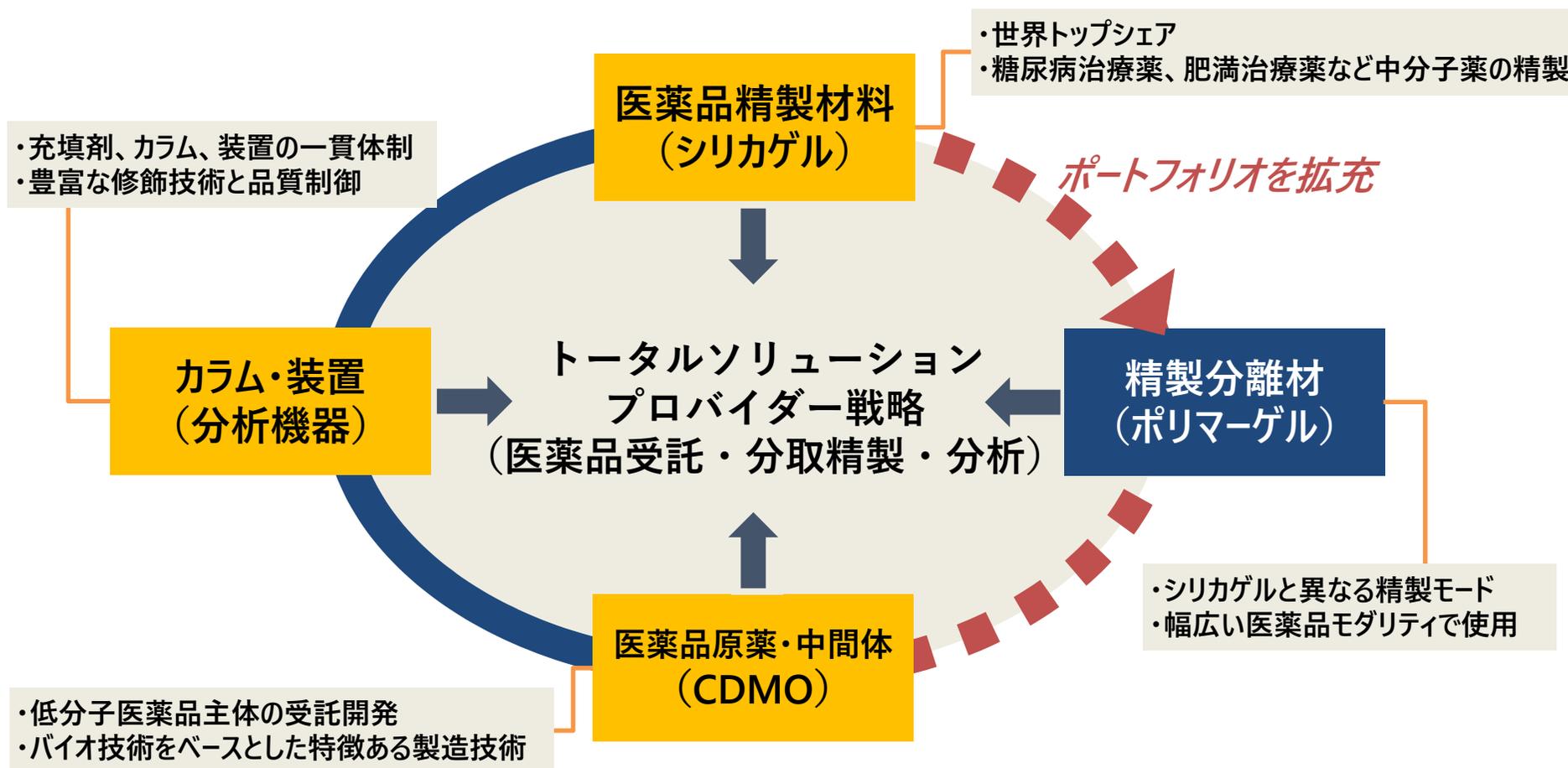
(予)



ヘルスケア事業の拡大に向けて

ヘルスケア事業の拡大に向けて

- クロマトおよび医薬品原薬・中間体の強みを活かしたシナジー戦略を展開
- 医薬品の開発・受託製造、分取精製、分析までのトータルソリューションを提供



医薬品精製材料（シリカゲル）の拡販

- バイオ医薬品市場の拡大にあわせて、精製分離材市場も成長
- 糖尿病治療薬および肥満治療薬向け精製用途として急速に需要が拡大
- 高強度、高耐アルカリ性のシリカゲルが業界に浸透
- グローバル展開で、欧米だけでなく中国・インドなどの新興国で順調にシェアが拡大

旺盛な需要に対応するため、積極的に生産能力を増強

尼崎工場1期増強
(ボトルネック解消工事)

投資額：約3億円
2023年2月完工
製造能力1.8倍*

松山工場
製造棟新設

投資額：約30億円
2024年内完工予定
製造能力3倍*

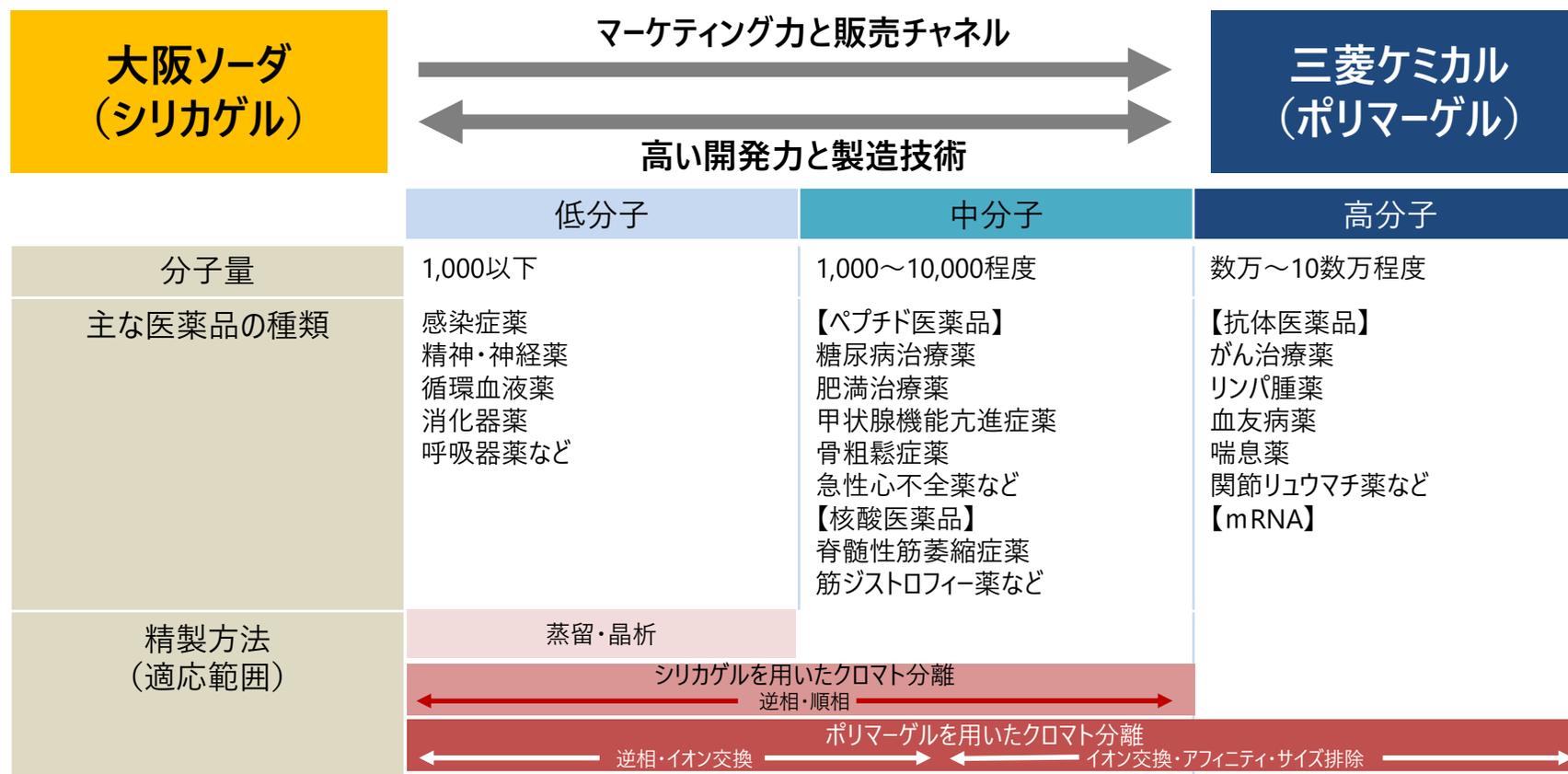
尼崎工場2期増強
製造棟新增設

投資額：約30億円
2026年内完工予定
製造能力4倍*

* 製造能力：2021年比

ポリマーゲル市場への参入

- 2023年3月、三菱ケミカル(株)とポリマーゲルの共同開発・販売について基本合意
- シリカゲルと異なる精製モードへのポートフォリオを拡充
- ペプチド医薬、mRNA、核酸医薬、抗体医薬などへ展開
- 最先端の分離性能を持つ次世代精製材料の開発を目指す



カラム・装置の拡販

- 品質管理や環境規制の強化により検査・分析機会が拡大
- 医薬品モダリティ変化に対応し、低分子医薬から中・高分子医薬品の研究開発が加速
- バイオ医薬品市場の拡大にあわせて、分析ニーズ拡大、カラム・装置市場も成長
- 分析時間短縮ニーズにより超高速液体クロマトグラフィー(UHPLC)の導入が加速

□ カラム生産能力増強

UHPLCカラムの生産能力を倍増（2023年3月）

□ カラムラインナップ強化

バイオ医薬品の分析ニーズに即した製品を開発・上市

- ・サイズ排除(SEC)カラム
- ・高耐アルカリ性カラム



□ 分析装置の高耐圧化 分析時間短縮ニーズに対応



NASCA2

医薬品原薬・中間体（CDMO）の拡販

- 品質問題・環境規制の厳格化により、中国やインドの原薬中間体メーカーの供給不安
- 原薬調達の国内回帰の動きが加速
- 旺盛な受託需要に対応すべく、生産体制を強化
- 低分子医薬品、高分子の抗体医薬品に続く新たなモダリティとして中分子医薬に注目

□ 松山 新製造設備のフル生産体制の確立

- ・ 2023年3月に新製造棟を完工し、2倍の生産体制へ
- ・ 大型案件を受託し、早期のフル稼働体制へ

□ さらなる生産能力増強を検討

- ・ 需要拡大を見据え、福井工場での設備増強を検討

□ 高薬理医薬品事業の強化

- ・ キロスケールから本格的な進出を目指し量産設備を検討

□ バイオ医薬品事業への進出

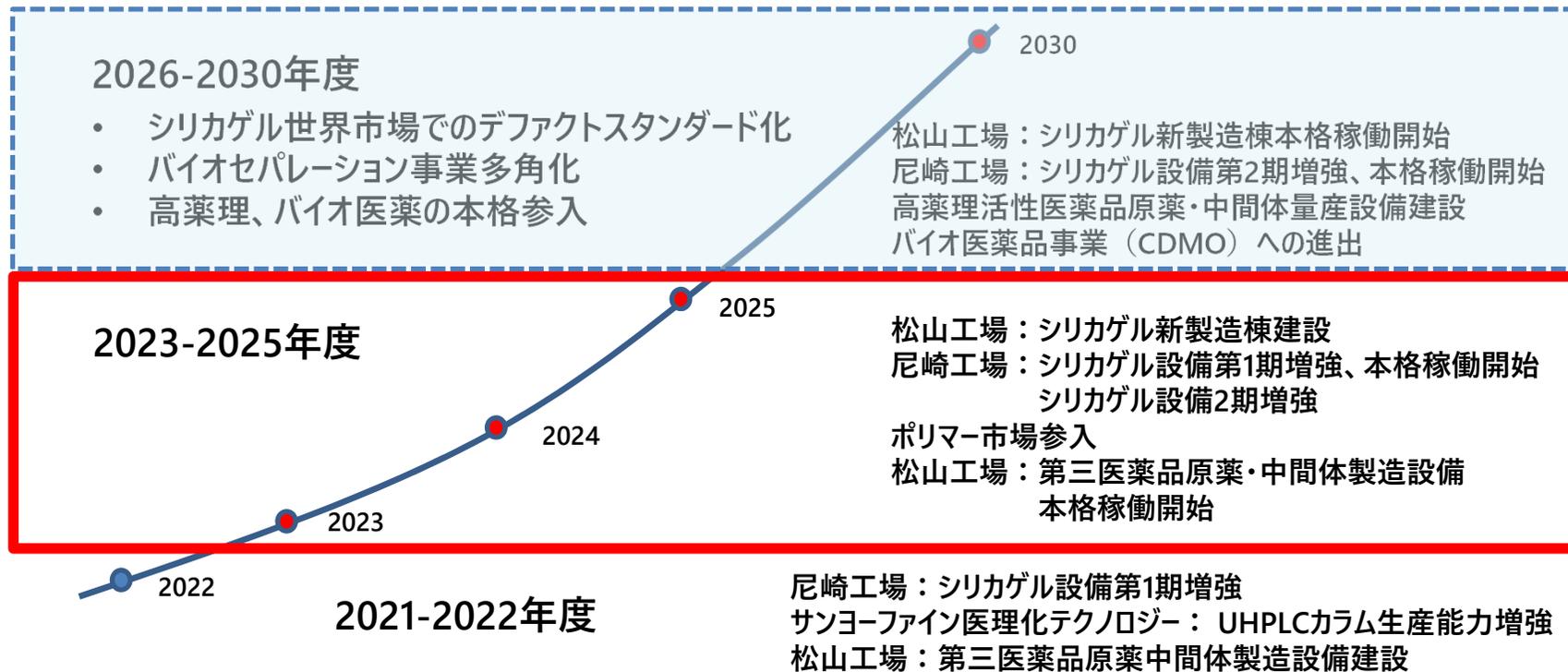
- ・ 既存技術の高度化によるバイオ医薬品事業への進出



第三医薬品原薬・中間体製造設備
(2023年3月完工：松山工場)

2030年度：ヘルスケア事業の“ありたい姿”

2030年度に、ヘルスケア事業の収益を2倍の規模へ拡大



80億円強の増強投資に加え、営業力を強化

- グローバルオペレーション強化（市場、顧客営業アクセス）
- 長期に亘る新薬開発プロセス、機密性の強い市場での「見込顧客創出・機会管理プロセス」を徹底
- 提案力（課題・問題、改善対応）の強化
- 実績・信用・信頼・ブランディングの強化

お問合せ先： 株式会社 大阪ソーダ
経営企画部 広報グループ
TEL：06-6110-1560

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではありませんのでご了承ください。